

* 転 *

STEP 転 「葛藤」を楽しむ

こんにちは! パパ大豆こと広島大三です。「承」号に続いて、「転」号「葛藤」を楽しむです。

何やら難しげで、厳しそうな響きですがそんなことはありません。

例えば、「ためし行動」って知ってますか? 子どもが、わざと怒られるようなことをして、お母さんの反応を試すんですね。これは、お母さんから「褒められたい」という気持ちの裏腹なんです。つまり、褒められたい、でもいつも良い子では、いられない、という葛藤です。

1～3歳くらいの時期の子どもにとって、大変重要なことなんですね。

このことを知っていれば、子どもの様々な問題行動も、余裕を持って対処できますよね。 (文: パパ大豆)

MENU

★反抗期! 真っ最中

★【育児お役立ちコラム】パパ大豆の「ネクタイとっておんぶひも」

～ありのままを受け入れるって?～

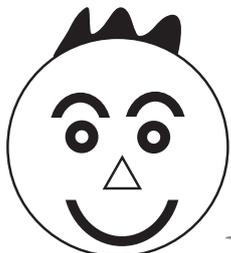
★パパ大豆の子育て豆知識

～発達の積み重ね(3)～

★ベビーマッサージ

～マッサージをやってみよう [足・お腹～背中編]～

☆インフォメーション



パパ大豆の「子育てひとこと語録」

乳児期は、しつけはいらない。叱ったところで、悲しい気持ちが残るだけ。
しつけや社会性は3歳を過ぎてからで十分。パパ大豆

【反抗期!真っ最中】

今回は、『反抗期』の重要性・考え方についてお送りしようと思います。

2〜3歳の子どもといえば、「第一反抗期」です。

早い子どもでは2歳前から、遅い子どもでも4歳前後には訪れるといわれています。

ソラの場合、2歳8ヶ月の頃が「真っ最中」でした(^o^)

なぜ、(^o^)なのかと言いますと、「反抗期」はやっかいだけれど、

子どもが健やかに成長している証拠だからです。

お姉ちゃんのルカに手がかかるので、その分ソラは聞き分けの良い所があり
(切り替えが早いとも言いますが)、正直ちよつと心配してたんです。

だから、なんとなく「反抗期」も嬉しい部分がありました。

そして、当時読んだ本にはこんなことが書かれていました。

この反抗期は、子どもの自我の発達にとって不可欠な要素となります。

反抗期の受け止め方によって、自我の発達が抑制されたり、
あるいは自分の感情をコントロールすることのできない、
自己中心的な自分勝手な子どもとして育ってしまいます。

この、反抗期を経験して、自我が順調に発達していくためには、
親子の信頼関係が前提になります。

お母さんやお父さんとの愛着関係が育まれていないと、
駄々こね(反抗期)はなかなか出てこないのです。

その意味で、駄々こねが出ると言うことは、
子どもと親との間に愛着関係があるということで、
決してわるいことではないのです。

帆足英一 著 『わが子に「愛されている実感」を伝える子育て』より

帆足先生のおっしゃる「愛着関係」は、シアーズ博士の提唱する

『アタッチメント・ペアレンティング』と同じ事なんですよ。

赤ちゃんの世話の積み重ねの中で生まれる赤ちゃんとの「特別な結びつき」。

これは、母親だけでなく、父親との間にも生まれます。

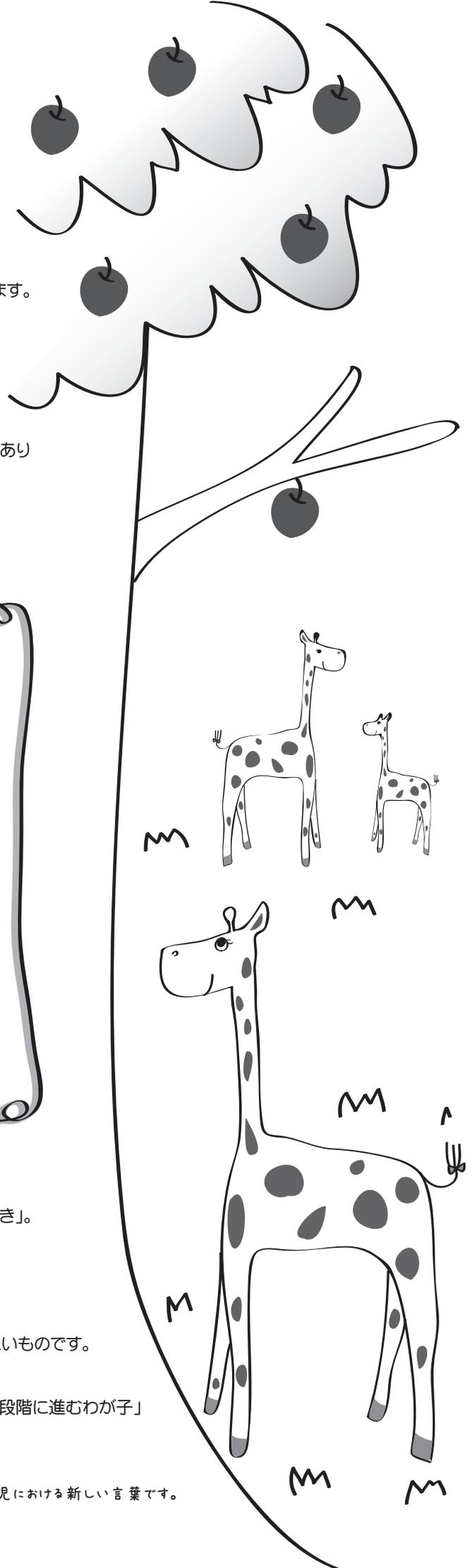
このアタッチメントの形成は、乳児期に行われるのがベストですので、

ママはもちろん、パパの育児参加も、ぜひ乳児期にこそ、積極的に行いたいものです。

反抗期(駄々こね)は、特に何か対策をするというよりも、親が「次の発達段階に進むわが子」

を応援する気持ちで見守れたら、こんなにいい事はないですね。

※アタッチメント・ペアレンティング・・・シアーズ博士によって生み出された、育児における新しい言葉です。





【育児お役立ちコラム】 パパ大豆の「ネクタイとっておんぶひも」

このコラムは、パパ大豆の育児日記「ネクタイとっておんぶひも」の過去のトピックからピックアップしてお届けしています。

<ありのままを受け入れるって?>

子育てを考える上で、子どものありのままを受け入れる事が大切、といえますよね。でも、「ありのままを受け入れる」と言われても、おそらくあまりピンとこないのではないのでしょうか。

これについて、佐々木正美先生はとっても分かりやすい言い方をしていますので、ご紹介します。

すぐれた親とすぐれていない親、いい教師とあまりいいとはいえない教師とのちがいは、どこなんだろうかということです。

そういう分類がいいかどうか分かりませんが、多くの人と会って強く思うことは、人の長所や才能を発見する能力のある人のほうが、だいたいすぐれた親であり、教師ですね。

反対に短所や欠点の方ばかりに目がいき、それを神経質に直そうとする人のほうが、どうもすぐれていない、あるいは、育児や教育に、失敗してしまうことが多いのではないかと実感しております。

(中略)

ですから、みなさんにやってほしいことは、できるだけ子どものいい点を、たくさん見つけてあげて、見つけてあげるといよりも、いい点を感じ取る力をみがいていただきたいと思います。

子どものいい点を感じ取って、共感の気持ちを持って接していただくと、子どもはそれだけでうまく育っていくと思っています。

佐々木正美 著 「続・子どもへのまなざし」より

パパ大豆が「なるほど」と思ったのは、「いい点を感じ取る力をみがく」という部分。そう、感性をとぎすませる事が大事なんですよね。

短所というのは、だまっけていても目に付くし、それを指摘するのは容易な事だけど、それに流されることなく、敏感に子どもの良いところを見抜いてやる感性。

短所が直る事はない、短所のせいで社会生活が困難になる事もない、というのは自分が一番よく知ってるはず。

悪いのは、「短所を指摘され続けること」で、自信を失ってしまうこと。

「短所にひとつ目をつむると、 その分、長所がひとつ見えてくる」

そうして、子どもの短所を気にしない事が、良いところを見抜いてやる感性を磨く事になるのだと、パパ大豆は思います。そう考えると、「子どものありのままを受け入れる事」って、それほど難しいことではないと思えてきませんか。





【パパ大豆の子育て豆知識】

<発達積み重ね(3)>



前回のお話の続きで、今回は児童期(3~5歳位)の発達についてです。

幼児期後半のプレスクールといわれるこの時期の発達課題は、「未知の探求をうながし自発を育てる」です。



3歳~5歳くらいの幼稚園に行く頃を「児童期」といいます。この頃に育つのが自発性です。

児童期の子どもたちは、とても活動的で、たえず動いています。

疲れを知らない時期、疲れがすぐ癒される時期ですし、あるいは失敗を恐れない時期、失敗をすぐ忘れる時期でもあります。

これは自らの働きかけによって、物事の性質を知ろうとしているからです。「感覚運動期」ともいいます。「動くこと=ものを考える」ことですから「どのくらい動くか=自発性を育てられるか」ということなのです。第一線で活躍している科学者は、同じ条件で同じ実験を何度もして、何度も得た同じ結論を真実として、新たなページを開いていくのです。

子どもの「いたずら」は科学者の実験なのです。

「いたずらをする=自発性が育つ=創造性が育つ」ということです。

このいたずらに対して、「どうしてそんなことをしたの!」と叱る人がいますが、この叱り方は、子どもにとって残酷ですし、最悪の叱り方です。

子どものいたずらは実験ですから、「できればしないほうがいい」ということを伝えてあげるだけでいいのです。

伝えてもすぐには止めませんし、たとえ伝えなくても、何回かやれば止めます。

大事なことは、何回もやらせることです。これが自発性を育てることなのですから。

佐々木正美 著「子育てトーク」より



これを読むと、少し反省します。

3~5歳というと、言葉も達者になり、こちらの言うことも、言葉としては完璧に理解できる年齢なので、ついつい「大人の常識」をおしつけてしまうことがあります。

いたずらに対して、「なんでこんなことするの」と言ってしまうたり。

いわゆる「最悪の叱り方」ですね。

この時期は、あまり目を光らせずに、やりたいようにやらせる、そして、子どものする事に、あまり口出ししないという方針を固めるのが良さそうですね。

次回は、「シリーズ最終回」の学童期をお届けします。

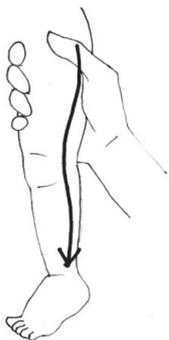




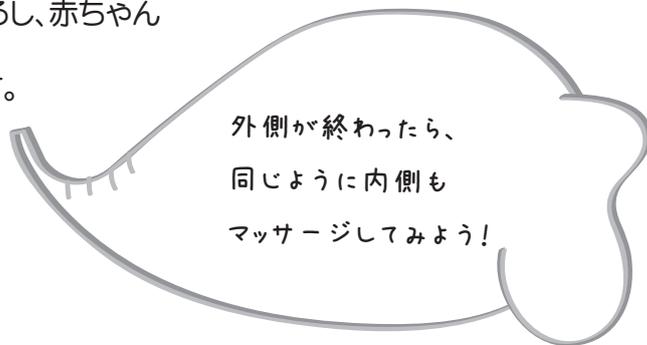
【マッサージをやってみよう*足・お腹～背中編】

承号に引き続き、転号では「足・お腹～背中」のマッサージをご紹介します。
いよいよ体全体のマッサージに入っていきますが、タオルや換えのオムツ等の準備は良いですか？
服も脱がせて行うものが多いので、実際にお部屋に入って温度を確かめてから始めてくださいね*

★足のマッサージ



脚の外側を足首まで撫で下ろし、赤ちゃんの足首を掴みます。
同じ事を反対の脚にもします。



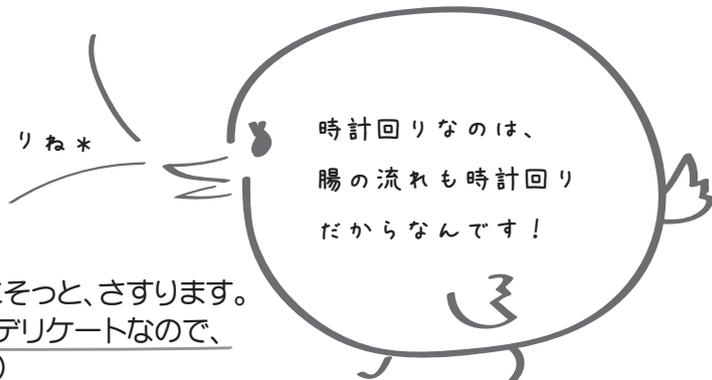
脚を両手ではさんで、手を前後に動かしながら、軽くなでこすります。
太ももから足首に向かって手をすすめます。
皮膚の表面をまんべんなく刺激します。

★お腹のマッサージ



優しく、
ゆっくりね*

おへその周りを時計回りにそっと、さすります。
(新生児のおへそはとてもデリケートなので、
触らないようにしましょう!)



☆便秘

→下半身と足のつけ根、腰、おなかのマッサージを特にいねいに。母乳で育てている場合はお母さんが肉類や乳製品など、動物性のたんぱく質をとり過ぎない様にするのも効果的です。よく便秘をする子は、エネルギーをうまく外に発散できていない場合が多いので、日常的な全身マッサージで体を解放してあげるとよいでしょう。



片手をおへそに水平に置き、おへそから上に向かってマッサージをします。
手を離す直前に反対の手で同じ動作をします。

おなかのマッサージをすると、

気持ちよくなってオシッコを

しちゃう時もあるので、おしり

拭きやティッシュを近くに置い

ておくと慌てなくて良いですよ!



両手を赤ちゃんの脇に入れ、胸の中央から親指のハラで、左右に滑らせるように開きます。
あばら骨の間を軽くなぞるように中央から外側へ、上から下へ順番に行います。



胸の中央から両手でハートを描くようにして、
胸全体をマッサージします。

小さな子の場合、
2~3本の指で。
大きな子は、手のひら
全体で行うと良いですよ*

*首が据わっていない子

→抱っこしながら行うのがベスト!

*ハイハイする頃の子

→抱っこして片手でマッサージしても大丈夫!

*一人で寝かせられるのが苦手な子

→お母さんの膝の上でうつぶせで寝かせて行ってみましょう♪



★背中マッサージ



手を横にして赤ちゃんの背中に置き、
赤ちゃんの尾骨から肩甲骨にかけて
マッサージします。



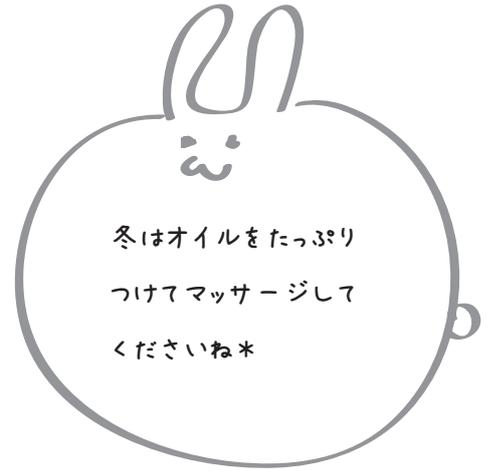
赤ちゃんの背中に手をそろえて置き、
左手と右手を交差するように、お尻
から背中、肩にかけてジグザグに動
かしながらマッサージします。



小さい子は指先でタッピング、大きな子
は手のひらを丸めてカッピングで、背中
を軽くポンポンとたたきます。
力を入れずに、リズムカルに行います。



首の両側に手を置き、両手で赤ちゃんの
首から肩、腕にかけて撫でつけるように
マッサージします。



☆夜泣き

→夜泣きをする時はたいていお腹の調子が悪い時なので、お腹を温めてあげると効果的。お母さんの手が温まった所で、
お腹をゆっくりなでてあげましょう。また、お母さん自身がイライラしていたり、体調がすぐれない時にも赤ちゃんは夜泣き
しやすいもの。こんな時は、お父さんに赤ちゃんのお世話やマッサージを代わって貰いましょう。そして、お母さんはゆっくり
心と体を休ませてくださいね。



♡ マッサージを終えて・・・♡



今回は「足・お腹～背中」のマッサージをご紹介いたしました!

承号とは違い服を脱がせての本格的なマッサージだったので、
ちょっと大変に感じたお母さんも多かったのではないのでしょうか?



でも、赤ちゃんの反応はいかがでしたか?嬉しそうな顔・声だったのでは??

特にお腹周りのマッサージは便秘や夜泣きにも効果があるので、試してみてくださいね*

(※絶対に効く・即効性があるという訳ではないので、まずは赤ちゃんの様子をよく見て、何を求めているのかを判断するようにしてくださいね。)

まだ首が据わっていない子・抱っこしていないと落ち着かない子は、無理に寝かせる必要はないので、抱っこをした状態で片手でマッサージしてみましょう。

お母さんの膝の上でうつぶせで寝かせて行うのも良いですし、

赤ちゃんとお母さんの体に負担が掛からない姿勢で行ってくださいね*



負担が掛からず、
落ち着ける姿勢で*



壁にもたれて



Happy Child

株式会社 ハッピーチャイルド

〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山2-15-14 パックス金山4F

TEL 052-265-6528 :FAX 052-265-6529

E-mail support@happychild.co.jp